

〔君臣言行録 八下〕同年九月永三十日、此日主上水尾御前、台德公秀忠、御酌天盃云々、扱行幸ニ付、主

上御膳黄金白銀ニテ製調フ、左ノ如シ、晴ノ御膳御掛盤六箇ナシ、小白銀ヲ以テ製ス、御茶碗七箇大

各蓋黄金ヲ以テ是ヲ製ス、中中宮ノ御方へ茶碗大、小蓋アリ、七箇、外女院御方、茶碗七箇大、小アリ

外銀内黄金ヲ用フ、略中右御道具黄金白銀ニテ仕立、還幸ノ節直ニ御進上ニナル、

〔蔭涼軒日録〕延徳二年七月廿六日、中林埜岡之夫人方江遣狀、副以白磁小茶碗一箇、扇裏薄紙一

卷、蓋此二物、彼方相求之故遣之也、

〔和漢三才圖會三十一〕そめつけちやわん繪茶碗三十一、そめつけちやわん繪茶碗

南京染付茶盃、淨白土膚甚濃密、而藍色之染付鮮明、多人形花鳥也、近年出赤繪金欄手、甚花美也、

肥前伊万里窑不劣于南京有細工者、加喜右衛門凡南京伊万里之白磁者、澄茶色不佳于濃茶、宜酌煎茶、良

〔燭夜文庫 附錄〕東路の日記

茶は玄ぶくつめたく、茶碗に何がし屋と、家名いかめしく、やきつけたるをかし、

〔俗耳鼓吹〕天明元年辛丑、小石川布施氏註の宅江、洲崎望陀欄の主祝阿彌を招請、獻立、中

白白かかううららいいややきき
茶茶わわんん わわくくししここ 中中略略 づづかかけけ

春慶春慶小角小角
木具足なし、木地吸物わん、

辻辻焼焼
ふふたた茶茶わわんん 赤貝赤貝略略 下下

〔狂歌江都名所圖會 三篇〕植木店

縁日の薬師の場の麥湯見せ出す茶わんも、るりの朝がほ。

〔扶桑名處名物集 伊豆〕三島宿

宿とれば三島に出せん茶さへ曆手染の茶わんなりけり

喜久雄

池水